

ふるさとに希望をもたらす
子ども達の深き学び



まさに万感胸に迫る2月となりました。それは、いつも鋭い視点と新鮮な驚きを与えてくれるいいたて希望の里学園生による「こども議会」のことです。現在、5年生がラベル製作を手がけた「あぶくまもち」の甘酒が道の駅で販売されています。ぜひお手にとり取って味わっていただきたいですが、そのラベル製作の過程を通じて「私達の行動が社会の役に立つこと」にわくわくしました」と発表してくれました。「わくわく」は自らの喜びや期待感を表現するために使われることが一般的ですが、学園の児童は「社会の役に立つ」という、自らの外側に「わくわく」を感じることができたということ。つまり、手に取ってくださるお客様や村を訪れる方々の笑顔や喜びを自分のものとして思い浮かべ、楽しめたということなのだと思われました。

そして6年生は「復興に向けて自分たちにできること」をテーマに発表してくれました。長泥地区を見学し、住民の方にもお話を聞き感じて感じたことをレポートしてくれましたが、中でも特段胸に響いた表現がありました。それは「そこに住む人、働く人、関わる人の思いが重なり、歩みを進むことが本当の復興と考えるようになりました」「長泥は、大変な場所なのではなく、困難に向き合いながら、一方で新しい魅力が生まれている。希望の場所であることを伝えたい」という発表です。

この言葉に触れ、震災以降の村民の皆様の不安や葛藤、それらを乗り越えてきた15年に思いを致し、涙が溢れ出てしまいました。

私自身、職員時代から現在に至るまで、魂を込めて取り組んできた「生きがい」となりわいにフォーカスした取り組みの数々、例えば避難先での営農継続と再開、除染後の地方回復、村内での営農再開、農業組織の設立誘導、全国に先駆けての大規模農地集積、公社農業部門の立ち上げ、帰還困難区域の避難指示解除、村産品の発掘と魅力発信、企業誘致等々、全てがここに繋がっていたんだ、と感じました。

5年生、6年生は震災時にはまだ誕生していません。その子ども達が「いいたて学」を通じて、これまで深い洞察を表現してくれたことに、私は「希望」を感じることができました。ぜひ長泥の皆様は勿論のこと、村民の皆様にも、この発表を聞かせていただきたいとお願ひ申し上げます。

未来を担う子ども達がこの村で暮らしたい、この村で働きたいと思えるような、そして全世代が笑顔になれるような、希望に満ちたふるさとに向けて全力を捧げてまいります。

まさに万感胸に迫る2月となりました。それは、いつも鋭い視点と新鮮な驚きを与えてくれるいいたて希望の里学園生による「こども議会」のことです。現在、5年生がラベル製作を手がけた「あぶくまもち」の甘酒が道の駅で販売されています。ぜひお手にとり取って味わっていただきたいですが、そのラベル製作の過程を通じて「私達の行動が社会の役に立つこと」にわくわくしました」と発表してくれました。「わくわく」は自らの喜びや期待感を表現するために使われることが一般的ですが、学園の児童は「社会の役に立つ」という、自らの外側に「わくわく」を感じることができたということ。つまり、手に取ってくださるお客様や村を訪れる方々の笑顔や喜びを自分のものとして思い浮かべ、楽しめたということなのだと思われました。

そして6年生は「復興に向けて自分たちにできること」をテーマに発表してくれました。長泥地区を見学し、住民の方にもお話を聞き感じて感じたことをレポートしてくれましたが、中でも特段胸に響いた表現がありました。それは「そこに住む人、働く人、関わる人の思いが重なり、歩みを進むことが本当の復興と考えるようになりました」「長泥は、大変な場所なのではなく、困難に向き合いながら、一方で新しい魅力が生まれている。希望の場所であることを伝えたい」という発表です。

この言葉に触れ、震災以降の村民の皆様の不安や葛藤、それらを乗り越えてきた15年に思いを致し、涙が溢れ出てしまいました。

私自身、職員時代から現在に至るまで、魂を込めて取り組んできた「生きがい」となりわいにフォーカスした取り組みの数々、例えば避難先での営農継続と再開、除染後の地方回復、村内での営農再開、農業組織の設立誘導、全国に先駆けての大規模農地集積、公社農業部門の立ち上げ、帰還困難区域の避難指示解除、村産品の発掘と魅力発信、企業誘致等々、全てがここに繋がっていたんだ、と感じました。

5年生、6年生は震災時にはまだ誕生していません。その子ども達が「いいたて学」を通じて、これまで深い洞察を表現してくれたことに、私は「希望」を感じることができました。ぜひ長泥の皆様は勿論のこと、村民の皆様にも、この発表を聞かせていただきたいとお願ひ申し上げます。

未来を担う子ども達がこの村で暮らしたい、この村で働きたいと思えるような、そして全世代が笑顔になれるような、希望に満ちたふるさとに向けて全力を捧げてまいります。

■ひとのうき

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
中井 奏来 くん	竜太さん 麻衣さん	小宮

HAPPY BIRTHDAY! 🍀

ひとのうき 令和8年2月1日現在

人口	今月 (前月比)	1月1日~31日までの人口動態
●男	2,210人(-4)	転入 6人
●女	2,126人(-4)	転出 6人
計	4,336人(-8)	出生 0人
世帯数	1,787戸(-3)	死亡 8人
(住民基本台帳人口)		

(1月21日から2月15日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

おくやみ

氏名	年齢	行政区
原田 マリー さん	55	飯樋町
青山 宏 さん	90	草野
渡邊 茂 さん	87	飯樋町
大谷 孝 さん	84	大久保・外内
中野 スイ子 さん	91	蕨平
圓谷 儀一 さん	93	蕨平
菅野 益彦 さん	67	関沢
高橋 義治 さん	79	飯樋町

ご冥福をお祈り申し上げます 🌸

住まいのこれからについて一緒に考えましょう!

空き家サポーターMessage 🏠 住み継ぐ村の宝

住まいについてのお話、聞いてみませんか?

空き家サポーター



渡邊富士男さん (飯樋町)

空き家空き地バンク・住まいの利活用に関するご相談は
いいたての暮らしをつなぐステーション3^o
(いいたて移住サポートセンター)
伊丹沢字伊丹沢578番地1
☎0244-68-2850



宅建士の資格を持つ相談員が、ご相談にのります。

空き家サポーターの渡邊富士男です。私達、空き家サポーターは、村の大切な住まいについて学び合うため、年に数回、不動産に関わるゲスト講師をお招きして、意見交換会を行っています。専門家のお話が聞ける、学びの多い場です。来年度はこの会を広く開き、ぜひ皆さんにも気軽に参加していただけたらと思っています。

お問い合わせは空き家サポーターまたは3^oまで。意見交換会についても、お気軽にお問い合わせください。

📷 皆さんが広報委員! 📷
いいたて PHOTO リレー
月ごとのテーマで写真を募集、エピソードと共に紹介します。



撮影 鈴木美智子さん (上飯樋)
テーマは「節分の思い出」
～たくましく育てほしい～



「震災前の飯樋幼稚園で、節分の豆まきをした時の集合写真です。この子たちは、当時のひよこ組ですね」。写真を提供いただいたのは、長年、飯館村の幼稚園で教諭を務めていた鈴木美智子さんです。「豆まきをして、自分の中の悪い心を追い出そうって、そもそもみんないい子なのにね。大人になるにつれていろいろな経験をしていくのだろうけど、この頃の純粋ないい心は、ずっと持ち続けてほしいですね」と当時を振り返りながら語りました。子ども達へのメッセージをうかがうと、「私は『たくましく』という言葉が大好きなんです。大変なことがあっても、その時々を充実した時間にしていくのは、自分自身だと思うから。この写真の子ども達にも、今の子ども達にも、『たくましく』生きてほしいです」と、心温まる言葉を聞かせてくれました。

4月号 3/16締切
例えば…「ひな祭り」「卒業式」「桜」「チューリップ」をテーマに。

5月号 4/17締切
例えば…「お花見」「入学式」「ツツジ」「花粉症」をテーマに。

- 写真様式 データ、現物を問いません。 ■ 写真枚数 1掲載につき1~2枚程度。
- 提出方法 電話で写真の詳細をお聞きした後、相談させていただきます。
- 選考 応募多数の場合は選考します。 ■ 報償 1掲載につき1,500円。

問 村づくり推進課企画定住係 (広報担当: 巻野) ☎0244-42-1613